

ボランティア便り

第2号(年3回発行予定)

《第46回久留米市ボランティア・フェスティバル 今回のテーマ「子どもの食支援」特集》

2025年3月9日(日)晴大のもと第46回ボランティアフェスティバルが長門石会場で開催され、約500人が集い交流を深めました。今回のテーマは、ここ数年来の物価、特に食料品の高騰の中で、緊急性が求められる孤独・孤立しがちな子どもの食支援でした。全国的には、子ども7人に1人が貧困状態にあると言われ、久留米市でも就学援助率が23%と高止まりしています。当日フードドライブでは、呼びかけに応じて家庭で余った食品34kgが寄せられました。

午前第1回目 クロストーク

【企業×支援団体×利用者 3者の視点】

1日弁当1.4万食も製造・販売し、余った食材を無償提供する創業45年の(株)セイブ社長・田中憲治さん、主にひとり親世帯の支援団体「じじっか」、その利用者2名の3者による座談会です。関心が高いためか、聴衆約50名が聞き入りました。

食品の中でも、特に惣菜は食中毒リスクが高い為、企業から支援団体に直接提供され、2次加工の後、安心・安全に利用者へ提供されるという信頼のおける仕組み作りが求められます。今回、偶然の出会いから企業側のメリット(廃棄処理費削減・社会的貢献・従業員の募集や意識向上など)と支援団体受援者側のメリット(食品の安定確保・社会との繋がりなど)がうまく噛み合い、ウィンウィンの信頼関係が生まれました。利用者は個食することなく共食し、大変助かっており、人々の支えを実感し、「この恩は今後色々な場面でお返ししたい。」と力強く述べました。

午後第2回目 クロストーク

【子どもの食支援活動を行う団体の視点】

子ども食堂と食料支援団体ボナペティの田町奈穂子さんの司会で、北野町での子育て応援フードパントリー(食品配布)「ひまわりの家」の小川牧子さんと、荒木町での朝食専門・子ども食堂「おにぎり食堂」の廣重深幸さんによる座談会です。これには約40名の聴衆が集まりました。

地域の子ども食堂と食品支援団体の多くは、民生委員や主任児童委員関係者です。どの団体も場所探しと継続する為の安定的な活動資金と食料確保が課題ですが、楽しく活動しています。



社長から金一封贈呈



じじっかの皆さん



司会の田町さん



小川さんと廣重さん



子ども達が大好きな皿回し

久留米市福祉会館（展示・体験・販売）

参加21団体で福祉会館内にて、展示・体験・バザーと食品の販売／無料提供が行われました。久留米市のゆるキャラになるつばも特別参加し、会場を盛り上げてくれました。また、廊下には団体別の久留米市内の子ども食堂（現在23カ所）と食料支援団体のパネル展示があり、子ども食堂・子どもの居場所提供・食料支援の各団体のノウハウが分かるようになっていました。市内全46小学校区に広がって欲しいものです。



屋外（飲食）

屋外飲食では、3団体による調理販売及びキッチンカー3台とテント販売1つから温かい料理が販売され、参加者達は春一番の晴天下で舌鼓を打ちました。終後、キッチンカーから実行委員会に、売上げの一部の寄贈がありました。



《ボランティアと異文化交流の達人 牟田慎一郎氏の講演会》

「人生を楽しくするヒント」

今年度第2回目の交流学習会として、2025年3月14日13時半より、25名とオンライン2名の参加で、ボランティアと異文化交流の第一人者である牟田慎一郎氏を迎えて、氏の生き様をたっぷり語って頂きました。 98年小郡市生まれ現在80歳の氏は、九州工業大学電気工学科卒の典型的な理系人間。何事に対しても合理的思考の持ち主。九州松下電器に入社し定年まで勤め上げ、定年後はボランティア活動と異文化交流に専念することで、多彩な趣味と活動でまさに第2の人生を謳歌しています。



笑顔が魅力の牟田慎一郎氏

若い時、高度成長期真っ只中で会社人間

だった氏の転機となったのは、初の海外出張でオーストラリアに行った時、現地の人々の「豊かな日常生活を垣間見て、「心豊かな人生」とは自問するようになりまし。

その結果、「多くの人と出逢うこと」と決め、以降の生活をボランティア活動と異文化交流にのめり込んで行くことになりました。氏にとってボランティアをすることは「人のため」とか、「人から感謝される」「見返り目当てのため」ではなく、自由意志で「自分が楽しみたい」ことであると言います。

そのためには、日頃からアンテナを広げて視野を広く持ち、ストレスなく過ごすことです。「病気の原因の90%がストレスに由来し、病気をしにくくなる」と仰るのは、医学的にも実を射ています。

異文化を理解し、すばらしい人々との出会いを重ね、今までに43ヶ国・地域を訪問し、今年50ヶ国制覇を目論んでいます。

異文化交流には「言葉、話題や趣味を沢山持つことが重要」と、力説します。具体的な異文化交流では、一人のスリランカの貧しい子どもの金銭的な里親になったことを手始めに、現在も里親支援を継続し、現地にも頻りに訪問し、直接交流しています。

その他多数の海外交流事業にも顔を突っ込むようになりました。その際は、「誘われたら行く」「頼まれたらやる」が氏のモットーです。



講演に聞き入る聴衆



10年先の夢を描きましょう

実生活でも、仲間が学びと遊びの融合基地
 〓くつろぎの場、創作アトリエとして、賛同者
 達の出資も得て、自宅そばに宿泊可能で、テニ
 スコートも備えるログキャビンのクリエイイ
 トプラザ／創造性開発研究所を10年にオー
 プンし、ここを拠点に仲間と活動の輪を広め
 ています。

総ての場において、必要なコミュニケー
 ションの基本は、好奇心・積極性・笑顔と言
 います。また、理系人間らしくパソコン、情報端
 末、SNSに精通し、Facebookを多用して、国内
 外に仲間を増やしています。

また、若さの秘訣は、好奇心・遊び心、それに
 恋心。「面倒くさい」は老化の始まり。「10年位
 先の目標」夢を描くことです」と仰ります。

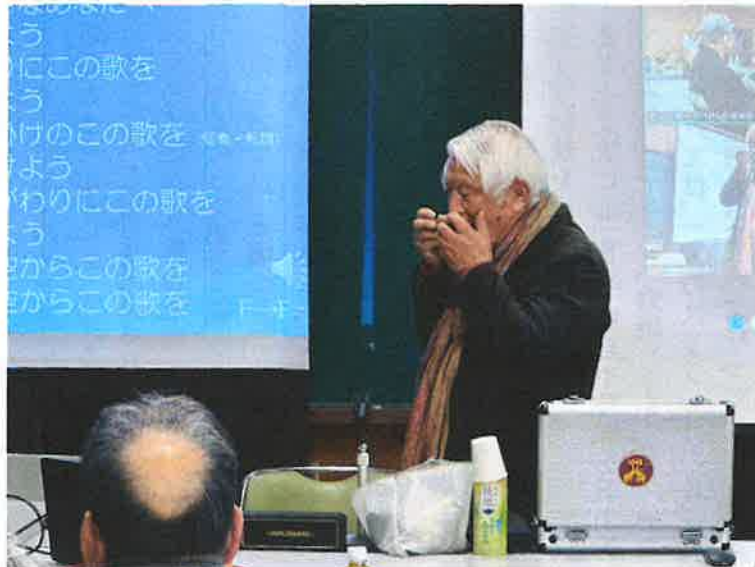
講演の最後に、本格的な趣味のハーモニカ
 で財津和夫作詞作曲の「切手のないおくりも
 の」と今の季節に合わせた「うれしいひな祭
 り」(福智町出身の童謡作曲家、河村陽光作)の
 2曲を披露し、感銘的な講演会を終えました。

△感想▽

☆にこやかに話されるボランティアの神髄。
 わたしにとって参考になることはかりでし
 た。これからは「楽あれば、楽あり」あつと言
 う間の時間でした。最後のハーモニカ演奏も会
 場との一体感を感じることができました。

☆講演会すこくためになりました。これから
 先の生き方の参考になりました。

☆小生も、大変参考になりました。毎日が楽
 しくないと生きていても、面白くないですね。
 それと、書類の整理の仕方、のヒントをいた
 だきました。ゴミとなった「資料」の山を、整理す
 るきっかけをいただきました。



ボラ連 定期総会のご案内 (予定)
 日時：5月16日 午前10時から
 場所：久留米市福祉センター2階大会議室